日　朝　日　新　聞　　第3種郵便物認可

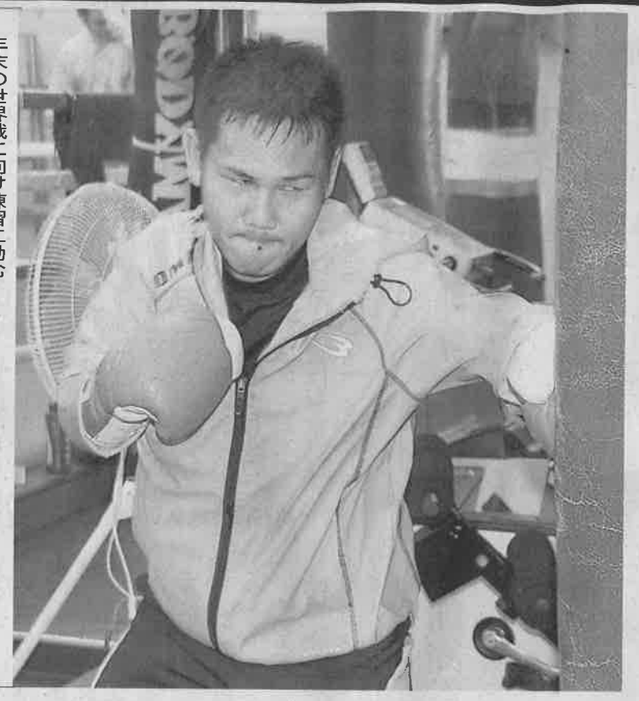
日本初　4団体制覇の夢追って

31歳高校生　向上心がある

大みそかに世界王者に返り咲きを目指す元チャンピオンには、もう一つの顔がある。31歳にして名古屋市の私立菊華高で学ぶ現役高校生だ。

SPORTS HUMAN スポーツヒューマン

高山勝成（31）＝プロボクサー



年末の世界戦に向け練習に励む

たかやま・かつなり　大阪市出身。17歳でプロデビューし、05年にWBCミニマム級王座を奪取。06年にWBAの暫定王座、13年にはIBF王座も獲得。今夏のWBO王者との統一戦に敗れタイトルを失う。仲里ボクシングジム所属。右ボクサーファイター。

人前でうまく話せない「これじゃあかん」

――4月にスポーツや音楽などの分野を学ぶスポーツアクトコースに入学。学生生活はどうですか？

「月曜から金曜日まで、学校のある名古屋で過ごしてます。野球部の寮で寝泊まりし自転車通学。大阪の自宅から早朝に学校に行かなければいけない時には、始発の新幹線で行きます。同級生は15、16歳でしょ。話題は女の子やゲームのこと。ちょっと話についていけないことも。担任も1歳年上で、学科教諭は全員年下。先生方も話しかけるとき『高山さん』とか戸惑いがあるみたい」

漢字も計算も×

――なぜ今、高校生になろうとしたのですか。

「中学を卒業してボクシング一筋。新人王や世界ランカーになるうちに人前で話すことが多くなった。でも、自分の話したいことが半分も伝えられない。もどかしかった。役所に行って書類を書く時も漢字が分からず携帯電話の辞書機能で調べる有り様。小中学生がする簡単な計算もできなくって。二十歳になり、これじゃあかんと思った」

「たまたま昨年12月、知人の恩師が高校野球の監督をされている菊華高で練習をしていたら、その監督さんが『学びたいという気持ちがあるならばウチを受けてみれば』と声をかけてくれた。合格に向け人生で初めて本気で勉強した。チャンスでしたから」

――学校は楽しい？

「生活は充実しています。今の僕には読み書きや伝え方の上達という目標があるから。向上心がある。中学を卒業し進学しても、すぐにやめていたと思う。そういった気持ちがなかったからです」

――試合があるときは、どうしているのですか。

「授業を休み練習に専念しています。だから学校に戻った時には皆に追いつこうと必死です。寮で朝の4時、5時まで勉強したことも。部屋の明かりがついているのを先生が見て『あまり頑張りすぎないで』と言われたこともある。8月にメキシコで国際ボクシング連盟（IBF）と世界ボクシング機構（WBO）の統一戦があり、学校に戻ったのが夏休み終わりの1週間前。どっさり宿題を渡されて、あれは大変だった」

ブログ文章上達

――文武両道ですね。

「勉強に力を入れるとボクシングがおろそかになるし、両立は難しい。でも通学を始めてから頭が活性化していると実感もしている。試合の中で、今まで感じなかった相手や周りの雰囲気が見えてきた。相手陣営の指示も分かる。状況判断も、より理解できる。一石二鳥、三鳥か。楽しいですよボクシングも。最近、ブログの文章がうまくなったと言われた。それもうれしくって」

――8月の統一戦では敗れましたが、12月31日のIBF王座決定戦で大平剛と対戦。日本初となる世界主要4団体制覇の夢は、あきらめていません。

「11年間、同じミニマム級（47・627キロ以下）でやってきた。複数階級制覇がよく話題にされるけれど、僕は一つの階級で四つの団体の頂点に立った選手が、そのクラスの最強王者の証明だと思っている。世界ボクシング評議会（WBC）王座と、世界ボクシング協会（WBA）の暫定王座を取り、残るは当時、日本ボクシングコミッション（JBC）は未公認だったIBFとWBO。所属ジムに迷惑がかかるから2009年にJBCに引退届を出して海外を転戦した」

――南アフリカやフィリピン、欧州、南米とアウェーばかり。

「王座をつかんで1度だけ泣いたことがある。13年3月、敵地メキシコでのIBF王座を判定で奪取したとき。勝ったとは思ったが、経験から敵地での判定勝利は難しいとも考えた。半分は諦めていたら3―0で新王者に。うれしいというよりも、ホッとした。自分の戦いを正当に評価してくれたと安堵の涙でした」

教員も夢の一つ

――将来目指すものは？

「こんな経験をしているのは僕しかいない。この経験を多くの人に伝えたい。教職資格をとって先生になるのも一つの手段。アマチュアに戻り東京五輪で金メダルを取ってから引退もありかな。でも、まずは勉強についていくこと。それに世界戦もある。校長先生や担任の先生からも『いまは試合に勝つことに専念して、勝利報告を学校に持ってきなさい』と言われている。その宿題を、きっちりこなします」（聞き手・荒川公治）